

DX戦略書

株式会社エイム

【2023年11月15日取締役会承認】



2023年11月15日
株式会社エイム
代表取締役 小山慎吾

1. DX取組み宣言

私たちは、1962年に「多摩板金」として創業した会社です。板金・金属加工を中心に技術を磨き、お客様のご要望に誠実にお応えすることで事業領域を拡大してきました。1997年には、それぞれの事業領域ごとに独立して発展してきた組織を再編し、株式会社エイムとして再出発しました。エイム（AIM）とは、「Act intelligently for more = より以上を求めて知的に行動しよう」という意味です。

2012年にあるお客様からの一本の電話がきっかけとなって開発した酸素カプセルは、溶接の難しいアルミニウムを当社の技術で克服した日本で初めてのアルミニウム製の酸素カプセルでした。鉄に比べて1/3の重さのアルミニウム製酸素カプセルは、移設が容易で、年間70台も売れるヒット商品となりました。最終消費者に直接お届けできる製品を開発できた喜びはとても大きなものでありました。

しかし、やがて酸素カプセルブームも去りました。そのなかで次にチャレンジしたのは、酸素に水素を加えることでさらに健康増進機能が高い高気圧の水素浴カプセルでした。水素は取扱いが難しく製品化できるまで2年を要しましたが、2016年には世界初の水素浴カプセルの開発に成功し、2017年には特許を取得、お客様と直接接することでより良い製品開発につなげるために、銀座に『水素浴カプセル専門サロン エイミー 銀座店』をオープンしました。

我が社は「100年企業」を目指し事業を行っております。100周年を迎える企業は僅か2,118社とのことです。成功する企業は世の中の役に立つ仕事をして、成功するように事業を行っています。重要なことは未来を見据え変化し続けることです。

今、水素カプセルは海外市場も開け、アメリカ・オーストラリアからの強いニーズも寄せられているなかEUのCEマークを取得し、FDA認証を申請中であり、さらなる海外展開を図ろうとしています。より多くのニーズに的確に応えていくためには、ロボット技術やセンサー等のデジタル技術を効果的に用いて生産効率を高めることが極めて重要です。また、飛躍的に生産効率を向上させるためには、自社だけでなく協力会社との協働も欠かせません。デジタル技術を協力会社とともに活かせるデジタル・ネットワーク協業体制を構築し、協力会社とともに世界に向けて羽ばたいていきたい。これがわが社のDXの取組みの方向性です。

2023年11月 株式会社エイム 代表取締役 小山慎吾

2. 経営理念、経営ビジョン

<経営理念>

【安心への創造】

私たちは互いに協力し合い創造性を持って行動し
お客様に安心と満足を提供することにより
社員一人ひとりとその家族の安心と幸福を創ります
その為に謙虚に学び、より以上を求め日々努力します
私たちは会社の繁栄を通して社会に貢献します

<経営ビジョン>

「私たちは、デジタル技術の力を借りながら長年培った溶接技術を生かし
お客様の要望に「より以上に」応え続けるとともに、世界中の人々の健康増進に
役立つ「水素浴カプセル」を、協力会社とデジタルネットワークで効率的に協働しながら、
開発・製造し、国内外に広く展開していきます。

これにより、令和恐慌に勝ち残り、ありがたいの溢れる会社になります。

3. DX戦略

当社は、経営ビジョン及びビジネスモデルを実現するために以下のDX戦略を立案し、PDCAサイクルを回しながらDXを推進します。

戦略①溶接工程のデジタル化の推進によるカプセル生産能力の向上

1)溶接工程にIoTを導入して溶接条件である電流、送り速度、入熱量等の数値化を進め、データにもとづく判断によりロボットで担える範囲を効果的に拡大し、生産能力を向上させる。

2)技術者の育成

ベテラン技術者のノウハウを若手に伝承するために、動画教育プログラム等のデジタルツールを積極的に活用する。

戦略②受発注管理の自動化の推進

自社開発の生産管理システム「SIMS※」に、カプセル自動発注機能、在庫管理機能、品質管理機能を追加開発することでカプセルの受発注管理の自動化を推進する。

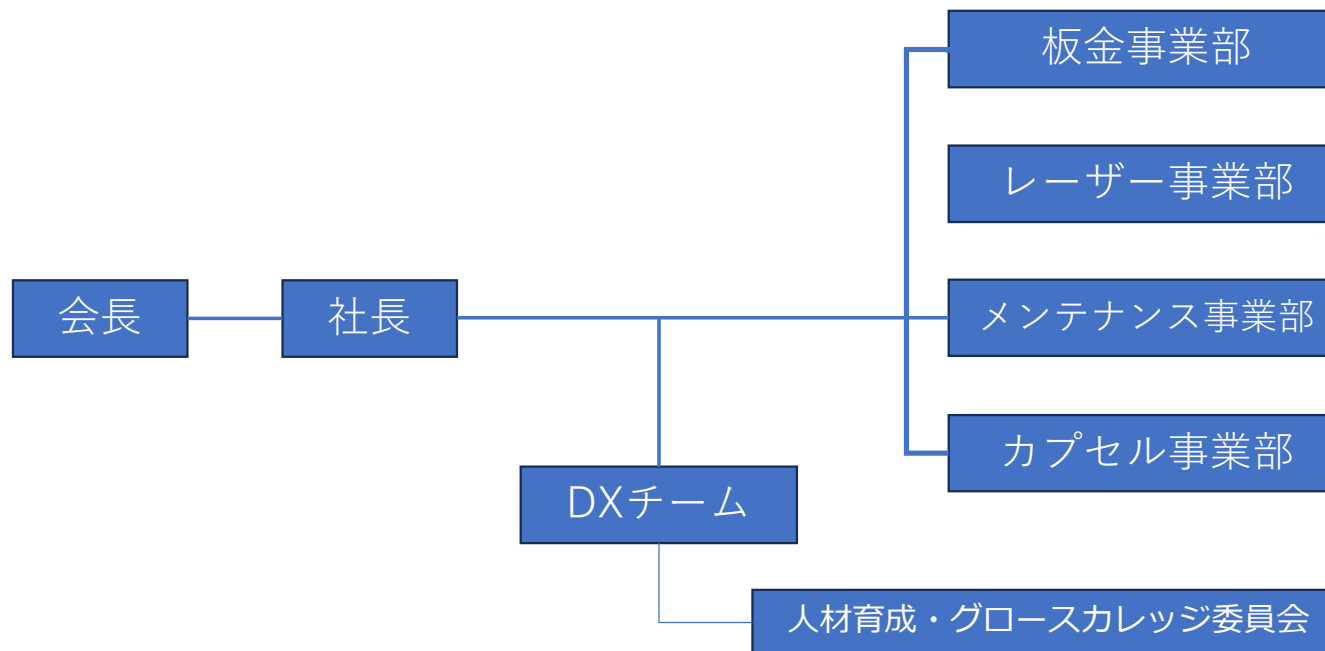
※ SIMS : Smart Industrial Management System の略。当社オリジナルのシステムで、受注から生産工程管理、納品請求まで一貫して管理できるシステム。

戦略③協力工場とのデジタルネットワークによる効率的な協働

「SIMS」や「発注ウェブサービス」の導入を協力会社に推進し、協力会社を含めた電子調達のデジタルネットワークを拡充することで、Win & Winの発展を目指す。

4. DX推進体制、デジタル人材

(1) 当社は、実務執行総括責任者である社長を中心とした「DXチーム」を立ち上げ、「デジタル化推進プロジェクト」として月1回進捗管理を行いながらDXを推進します。



(2) デジタル人材の育成は、“人材育成・グロースカレッジ委員会”で計画を立案し実践してまいります。

5. デジタル環境整備

当社は、DX推進のために、定期的に既存システムの見直・改善や新規システムの導入を行いながらデジタル技術の活用や環境整備に取り組みます。

DXを推進するために毎年売上の1%を投資します。

6. 目標値 (KPI)

DX推進の達成状況を測る指標として下記を定めます。実行計画を立案したうえで、取り組みを行い、各部署ごとに目標値の達成状況を月1度評価を行いながら目標達成できるようPDCAサイクルを回していきます。

区分	取り組み内容	時期	目標値
戦略①溶接工程のデジタル化の推進によるカプセル生産能力の向上	溶接工程のデジタル化による生産性向上	2026年までに	溶接工程の20%を自動化する
	デジタルサービスに従事している従業員数	2026年までに	デジタル人材5名育成
戦略②受発注管理の自動化の推進	自社開発の生産管理システム「SIMS」に、カプセル自動発注機能、在庫管理機能、品質管理機能を追加開発することで受発注管理の自動化を推進	2026年までに	業務プロセスのデジタル化 現状15% 目標40%
戦略③協力工場とのデジタルネットワークによる効率的な協働	「SIMS」や「ウェブサービス」の導入を協力会社に推進することによって電子調達を拡充	2026年まで	エイムEDIの普及 現状5% 目標値 20%

7. セキュリティ

当社は、「情報セキュリティ基本方針」を公表し、SECURITY ACTION二つ星宣言を行い、お客様からお預かりした情報を大切に保護するために情報セキュリティの対策を実施してまいります。

8. DXの進捗に関する社長メッセージ

株式会社エイムの小山慎吾です。

私たちの社名「エイム」は、「Act intelligently for more=より以上を求めて知的に行動しよう」から来ています。その精神にもとづき、この度、次の経営ビジョンを策定しました。

私たちは、デジタル技術の力を借りながら長年培った溶接技術を生かしお客様の要望に「より以上に」応え続けるとともに、世界中の人々の健康増進に役立つ「水素浴カプセル」を、協力会社とデジタルネットワークで効率的に協働しながら開発・製造し、国内外に広く展開していきます。これにより、令和恐慌に勝ち残り、ありがたいの溢れる会社になります。

世界中から水素浴カプセルへの強いニーズが寄せられているなかEUのCEマークを取得し、アメリカのFDA認証も申請しておりますが、実際に多くのニーズに的確に応えていくためには、①溶接工程のデジタル化を推進しカプセル生産能力を向上させること、②受発注管理の自動化を推進すること、③協力工場とのデジタルネットワークによる効率的な協働をしていくことが重要です。

これらのDX戦略を私が先頭に立って実現していきます。かねてよりエイムを応援してくださっている多くの皆様とともに「100年企業」を目指して変革し続けていきたいと思っておりますので、倍旧のご支援をお願いいたします。